

# 豊洲新市場にカビ大量発生

生鮮市場として深刻な事態

共産党都議団 原因究明迫る

東京都築地市場の移転先とする豊洲新市場（東京カス工場跡地）の売場棟内の96店舗でカビが多数発生していた問題で、日本共産党都議団は8月25日の都議会経済・港湾委員会で、「生鮮食料品を扱う新市場で大量のカビが発生するのは深刻な問題だ」と指摘し、原因を究明するよう求めました。

空調していたのになぜ発生

カビへの汚染付着など調査を

カビの発生状況——計96店舗の内訳

- 水産仲卸棟——84店舗
  - 加工パッケージ棟——3店舗
  - 青果仲卸棟——8店舗
  - 管理施設棟——1店舗
- 冷凍庫や木製の棚、流し台、陳列台などに発生

共産党都議団は、都が原因について「長雨、台風などで湿度が上昇したため」と説明していることについて、「空調を運転していたのに、なぜ大量のカビが発生したのか。新市場の建物は閉鎖型で湿気がこもりやすい」と指摘。「地下水位が高く、地下水の上に建物が建っている状態にあることも原因になりうる。ベンゼンや水銀など揮発性の高い汚染物質がカビに付着している可能性もありうる」という専門家の見方を紹介し、「カビに汚染物質があるかどうか、空気中にとれただけ胞子が漂っているかも調査が必要だ」と求めました。

都の担当部長はカビの汚染調査に触れず、「地下空間の対策にあたり大気の状態を確認する」と答えるだけでした。

市場の豊洲移転は中止し  
築地の再整備を

今回起きたカビの大量発生という問題を見ても、豊洲新市場は生鮮食料品を扱う市場としてふさわしくないと明瞭です。深刻な土壌汚染が残る豊洲移転は中止し、築地の再整備への転換に、全力をあげます。

日本共産党

東京民報 ご意見・ご要望は03-5972-1621、FAX 03-5972-1590  
2017年8・9月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。  
発行/東京民報社（港区芝1-4-9 平和会館5階）1965年11月12日第三種郵便物認可